



雅叙苑観光有限会社 代表取締役 田島健夫  
忘れの里雅叙苑 天空の森 TENKU



# 鹿児島県、霧島連山の麓にある 天空の森 TENKU 鹿児島空港から車で15分の立地

飛行機で東京から約2時間、大阪から約1時間半

上空からみたTENKUの敷地  
60畝の敷地に宿泊施設が3棟のみ



周囲には錦江湾を望む桜島  
薩摩半島南端にある開聞岳(日本の百名山)など自然に囲まれた環境





1泊30万円～

りんう  
「霖雨の森」





1泊40万円～  
「茜さす丘」





1泊50万円～  
「天空」





空間、食、人

この大地から古からあったことが  
観光の大きな資源の一つ。

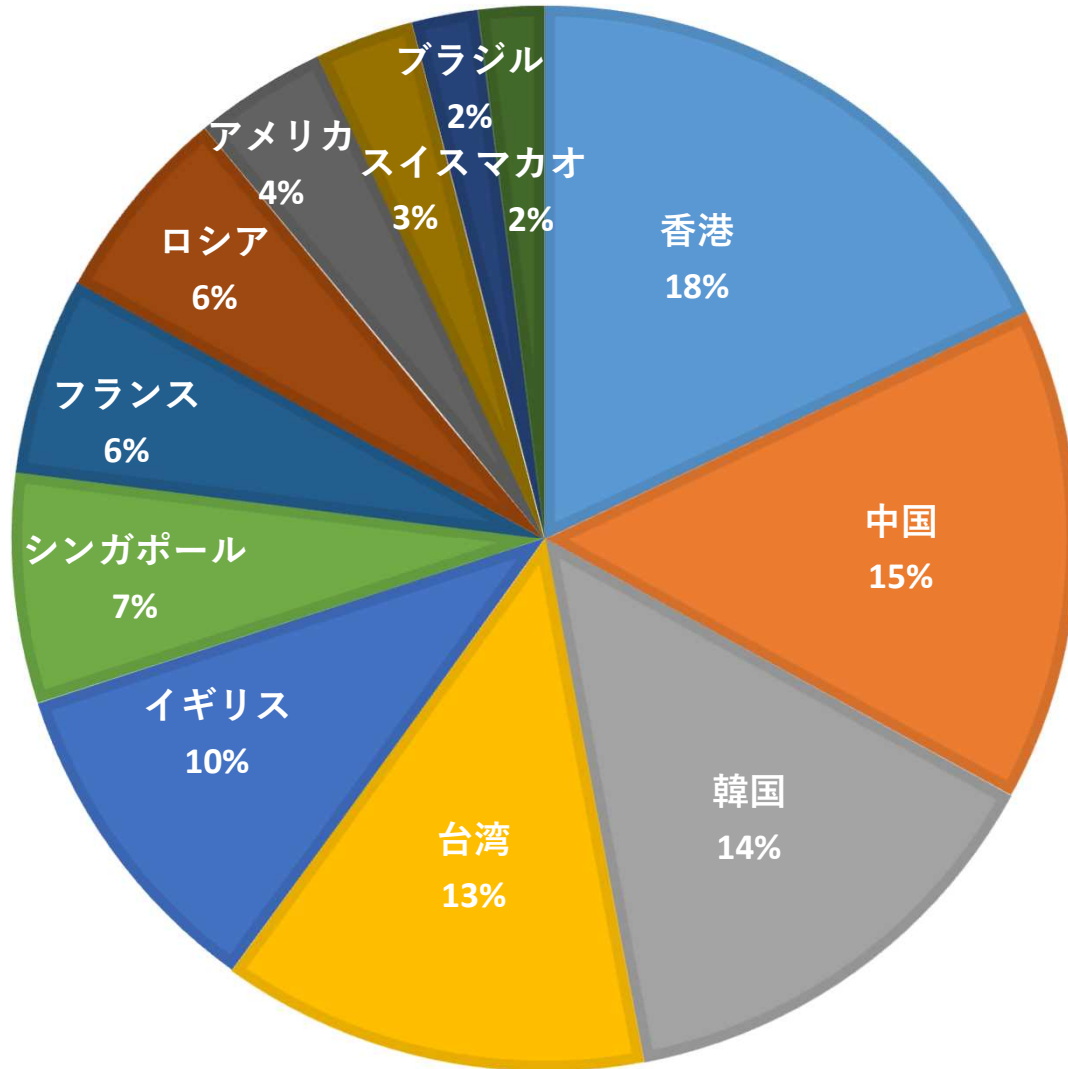


年間約500組が訪れ、  
その約半数は海外からのお客様。

何もないところから始まり、  
今では世界中から人々が訪れるまでになった。

# 2019年度インバウンド年間内訳

- 香港
- 中国
- 韓国
- 台湾
- イギリス
- シンガポール
- フランス
- ロシア
- アメリカ
- スイス
- ブラジル
- マカオ





# TENKUまでの歩み

1970年、新婚旅行ブームに乗って旅館を開業するも結果は散々…

地元の工事関係者を受け入れる1泊3500円の安宿となってしまった。



思い描いた理想の旅館と程遠く、  
「都会には無い故郷のような風景の宿」を作ろうと、  
茅葺き屋根の古民家旅館「忘れの里 雅叙苑」をオープン。



古民家ブーム、露天風呂付き客室の先駆けとなり、大人気に。



雅叙苑の人気を受けて、次々と似たような旅館ができた。

生き延びるためにはどうすれば良いのかと考えた時、  
新しいマーケットを作る決断、それが、天空の森 TENKU。



今ではインバウンドのお客様が多い中、  
真の日本文化を求めてやって来る人達が多い。



## ～ 私たちの文化の価値を認めてくれるのは外国人 ～

日本の経営者は、地域の伝統的生活文化を体験できる宿泊施設を思い切っつくるべき。

地元で受け継がれ、研ぎ澄まされてきた知恵、風習、伝統、習わし、匠の技などが「観光資源」となりうる。



その観光資源を使って、宿泊業を営むにあたり、山を適正に守ること、農家らの暮らしを守ること、当たり前前のことを当たり前前にすれば、当然かなりのコストがかかる。

「適正コスト」に応じた「適正価格」を設定することが大切である。その価値を判断するのは私たちではなく、他ならぬお客様。

私たちの文化を求め、特にその価値を認めてくれるのは欧米の外国人。

観光客の消費が地元素材の消費と繋がっていないことが多々見受けられる。宿泊施設単独ではなく、地域全体での発展が必要。